

世界からのまなざし・世界へのまなざし—現代世界と中国語の未来—
第3部 パネル・ディスカッション

中国語発信、現代世界との暮らし—人・文化・社会—

ICTを活用した大学教育 世界の動向と日本の課題

放送大学 ICT活用・遠隔教育センター

苑 復傑

2009.09.26

内容

1. グローバル化社会と人材養成への期待
2. 米国のICT活用環境の開発と大学教育への活用
 - MIT の OCW
 - Boston Collegeの中国語教育のオンラインリソース
3. 中国の国家戦略と語学教育
 - 先進的な学習リソースの有効利用に積極的
 - 新留学生政策と孔子学院の発足
 - ICT活用の外国語教育事例(天津外国語大学)
4. 日本のIT国家戦略と語学教育
5. まとめと今後の課題
 - アメリカ、中国、日本の3ヶ国におけるICTを活用する大学教育に焦点を当て、特に語学教育の視点も入れて、比較考察する

グローバル化社会と人材養成への期待

- 21世紀の社会は、知識経済基盤社会、情報化社会、グローバル化社会と称されている。人々の衣食住、仕事と学び、遊び、文化伝達と交流においては、インターネット技術の活用、国際感覚の養成と語学の習得などが重要かつ一般的になってきている
- 人、物、財、知識、技術、情報などのグローバルな交流と移動が常態化した中で、インターネットを介するだけで成立するものは少なくない(テレビ会議、バーチャル大学の講義、討論、また金融市場など)。しかし、その営みの中で、通用する言語を介在しなければならない
- 語学の習得および、グローバルな視野をもったコミュニケーションのできる人材の養成が大学教育に、ますます期待するようになった

アメリカのICT活用環境の開発と教育への活用

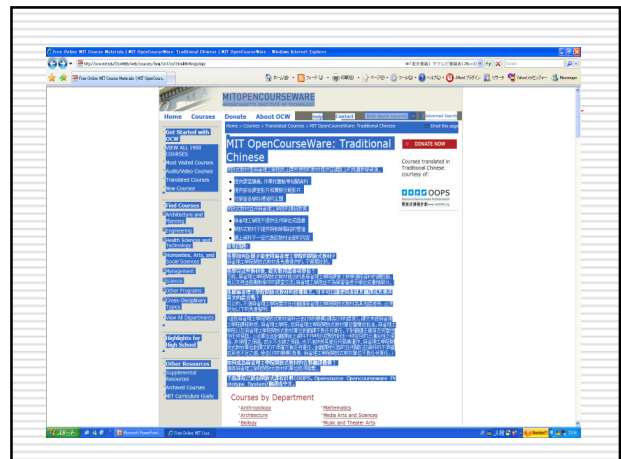
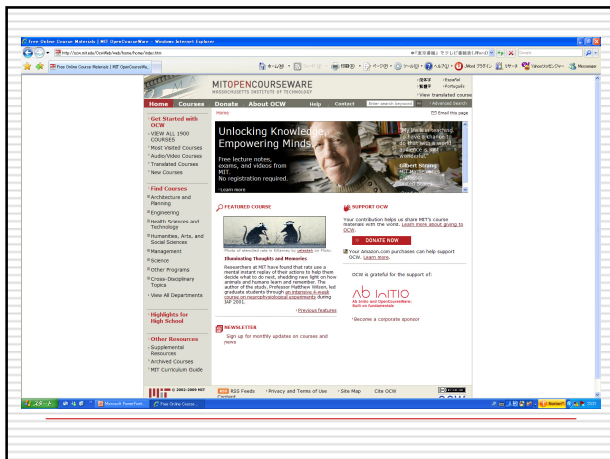
- 1993年の情報ハイウエイ国家戦略からアメリカ発のインターネット技術の開発と普及が始まった
- Windows PC、Microsoft officeなどのアプリケーションのシェア拡大、Google、Yahooなど様々なサーチエンジンの登場、wikipedia、You Tube の出現
- オンライン大学、バーチャル大学が誕生(Jones International College、Wester Governors Universityなど)
- MITの教育コンテンツ OCWの公開
- 大学における e learning学習の普及
- ICTが異文化教育と語学の習得への応用

MIT の OCW (オープン・コース・ウェア)

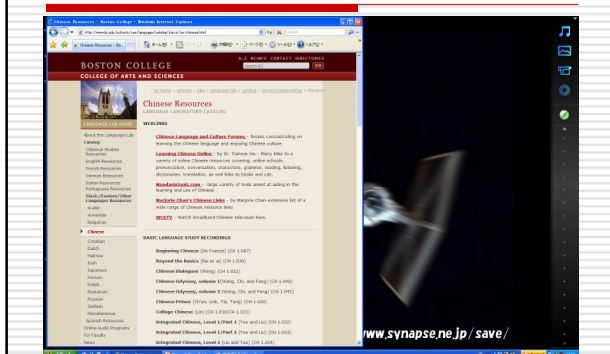
- 世界規模で学習の質を高めていこうとする使命感から、MITが先頭に立って2001年よりOCWプロジェクトをスタートした。(YU)
- インターネットという新しい情報伝達技術を利用することで、これまでより、短期間のうちに、新しい知識や教育コンテンツを普及させようとしている。(宮川)
- OCWはMITの授業で使われているコア教材が利用されており、コースごとに講義ノート・講義概要・文献リスト・研究課題を公開している(1800コース)

OCWの高等教育への貢献

- 1. OCWの教材は、高等教育を普及させようとしている世界の途上国にとって、利用価値の高いものとなるだけでなく、新しいカリキュラムや特別講義を展開するために参考になる。
- 2. 個人学習者にとっては、自習のための教材や補助資料としてOCWを利用することができる。
- 3. 教育資源の共同利用においては、他の教育機関に、一つのモデルを提供した。
- 4. OCWは、インターネット上に膨大な量の教育資源が生み出され、他の大学への波及効果が含まれている。また、教育や学習に役立てるための革新的な方法をめぐって、議論のたたき台を提示した。
- 5. OCWは学習リソースを蓄積する共通の場、また教育改革を促す役割を果たす。



Boston Collegeの中国語教育のオンラインリソース



Boston Collegeの中国ゲートウェイ



アメリカの特徴

- ICT技術の開発・普及と大学教育への活用が戦略的に、組織的に展開され、サポートシステムも充実
- 財政的に、連邦政府の援助
- IT企業の努力と協力
- 大学の取組み、教員の貢献
- 社会的なボランティア的支援

中国の国家戦略と語学教育

- ICTのインフラ整備 東部→中部→西部
大学を中結点とし、普及している途中である。
携帯は6億人で普及
- 英語教育は小学校からスタート
- 大学卒業、大学院卒業には英語試験を課する
4級、6級、他の英語試験も就職時に物を言う
- 第2外国語教育も盛んかつ重要視→国際化
- 大学ではネット、CD、DVD、NHK放送、米国、イギリスのテレビ放送を活用する。
- 言語ソフトは高いため、普及は困難(桜花日本語、利用費1級1万円)

先進的な学習リソースの有効利用に積極的 中国のCORE (MITのOCWを翻訳する取組み)



新留学生政策と孔子学院の誕生

- グローバル化に対応するため、一方、英語を中心とする外国語教育のインプットを重視する国家教育方針・戦略
- 新留学生政策：公費派遣、(毎年5000人、2007年より) 海外の留学生の受け入れ (19万人、2008年)
- 他方、中国語教育を世界に広めるため、孔子学院を21世紀に入ってから世界範囲に設立、現在、約250校
- 孔子学院は教育機関として、未熟であるが、中国語の教育と学習を通して、世界と繋がっていく狙いがある

中国天津外国語学院での語学教育の実践

- 日本語教育について、学院のホームページの関連情報
- 第一、日本語の学習資料があり、自主学習できること
- 日本語基礎課程(一)、http://det.tjfsu.edu.cn/j_course/index_1.htm
- 日本語基礎課程(二)、http://det.tjfsu.edu.cn/j_course_2/index_1.htm
- 第二、日本語の学習資料をダウンロードできること
- 授課教案、<http://xibu.tjfsu.edu.cn/jpkc/2009/riyufanyi/teaPlan.html>
- 教学課件、<http://xibu.tjfsu.edu.cn/jpkc/2009/riyufanyi/teaPpt.html>
- 第三、日本語の学習について、オンライン質問と解答できること
- 提问平台(質問掲示板)、<http://xibu.tjfsu.edu.cn/jpkc/2009/riyufanyi/interSta1.html>
- 第四、オンラインで試験項目の練習ドリルがあり、自主復習できること
- コースバンク、<http://xibu.tjfsu.edu.cn/jpkc/2009/riyufanyi/lxt.html>

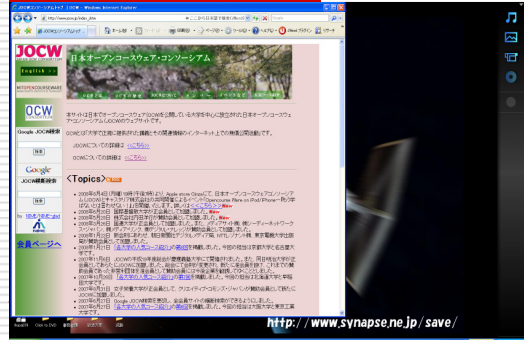
日本のIT国家戦略と語学教育

- 日本のICTインフラ整備、技術力が高い、高品質なインターネット利用環境が整備されている
- 中国より遅いが、語学教育は21世紀に入ってから、小学校でも英語学習を始めた
- 大学における語学教育の重視、国際感覚のある、コミュニケーションのできる人材の養成を経済産業界が提唱している。
- CALL教材のような共同開発によるメディア教材も作られ、“遊”のような小人数の教員の努力によって作られている優れたシステムも存在している
- しかしそれらの普及は必ずしも順調ではない
- また他方、学術の中心は日本へ、日本的経営、日本語教育を世界に広める趨勢があったものの、バブルの崩壊によって構想が頓挫した。
- しかし、現在において、多言語を学ぶ社会的ニーズ、経済界の要請が発生しているが、それに対しての、大学の対応が遅れている

日本の大学の語学教育の実践

- Call 教材の開発と利用
 - * メディア(テキスト、画像、音声)を複合的に利用して、言語理解を促進する補助情報をさまざまな形態で提示することができる
 - * 情報を階層構造の中に組み入れられるので、学習者へのヒント、フィードバック、解説などの補足情報とメイン情報を区別できるため、学習者は理解の過程で情報の整理がしやすい
 - * 学習者が好きな部分を好きな順番に自分のペースで学習できる、いわゆる学習者独自の学習スタイルが選択、確立できる
- NIME-gladの開発と利用
- 成蹊大学の“遊”システムの開発と利用

日本のJOCW (日本ではコンソーシアムの形成)



まとめ

- グローバル化の中で英語が絶対的な優位を占める。アメリカなどの英語圏では技術にも、学術的にも、教育的にも優位に立っている
- 中国では外国語の習得と世界への中国語の普及の両面において、国家戦略として、明確な目標と目的がある。しかし体制の構築中に、システム、ソフトウェアの開発が追いつかず、双方向のICT利用のコストが高いなどの問題がある
- 日本の語学教育は制度的に重要視されており、大学で英語による授業の開講が要求されているが、質的な大きな改善が見えない。大学間の連携と協働が不足で、特に第二外国語の教育が苦戦している大学も多い。

今後の課題

- 文字情報、絵、音声、画像の複合利用が言語学習に有効（ビデオ、CD、DVD、テレビ番組の利用など）、特にインターネットによる学習資源の蓄積、サーチ、双方向の学習は効果的である
- 語学教育においては、国内・国外における教育資源の共同開発・共同利用が有効、またマスメディアも助けになる
- Wiki, You Tube などのICT活用は学生の成長、教育質の向上には大きなメリットをもたらす。
- グローバル化時代における大学間の語学教育の連携、協働、内容・方法の交流、ノウハウの共有も重要な課題となる。